

稲沢市 子ども・子育て支援に関するアンケート調査 （就学前児童保護者・就学児童保護者対象） 結果報告書（概要版）

1 調査の概要

（1）調査の目的

「第3期稲沢市子ども・子育て支援事業計画（令和7～11年度）」の策定を進めるにあたり、子育て家庭の生活状況や市の施策に対する、保護者の方の意見・要望を把握し、稲沢市の新しい子育て支援策を検討するため、調査を実施しました。

（2）調査の対象と実施方法

○調査対象：稲沢市在住の就学前児童がいる家庭の保護者

○調査期間：令和6年2月23日～令和6年3月18日

○調査方法：郵送配布・回収、WEB回答

○配布・回収：

配布数	回収数		回収率
950 票	531 票		55.9%
	WEB	紙	
	289 票	242 票	

○調査対象：稲沢市在住の小学生がいる家庭の保護者

○調査期間：令和6年2月23日～令和6年3月18日

○調査方法：郵送配布・回収、WEB回答

○配布・回収：

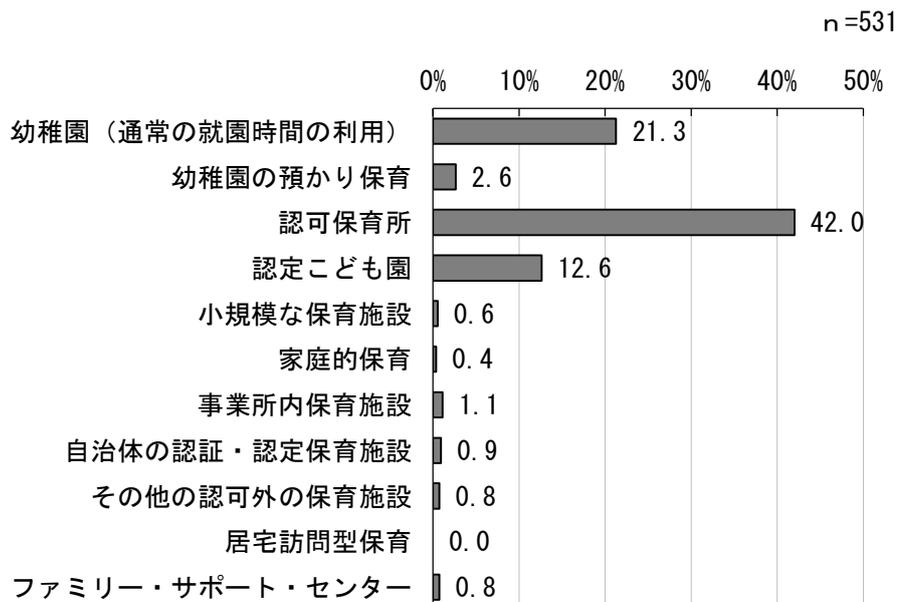
配布数	回収数		回収率
950 票	530 票		55.8%
	WEB	紙	
	298 票	232 票	

2 調査の結果概要（就学前児童）

（1）「定期的な」教育・保育の利用状況について

○「定期的な」教育・保育事業の利用状況

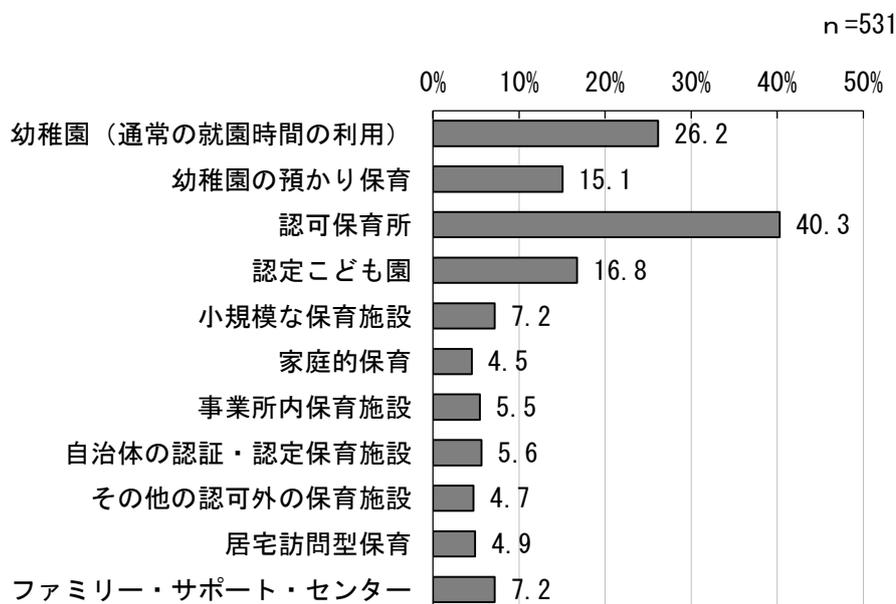
現在「定期的に」利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が42.0%と最も多く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が21.3%、「認定こども園」が12.6%となっています。



○今後、定期的に利用したい教育・保育事業

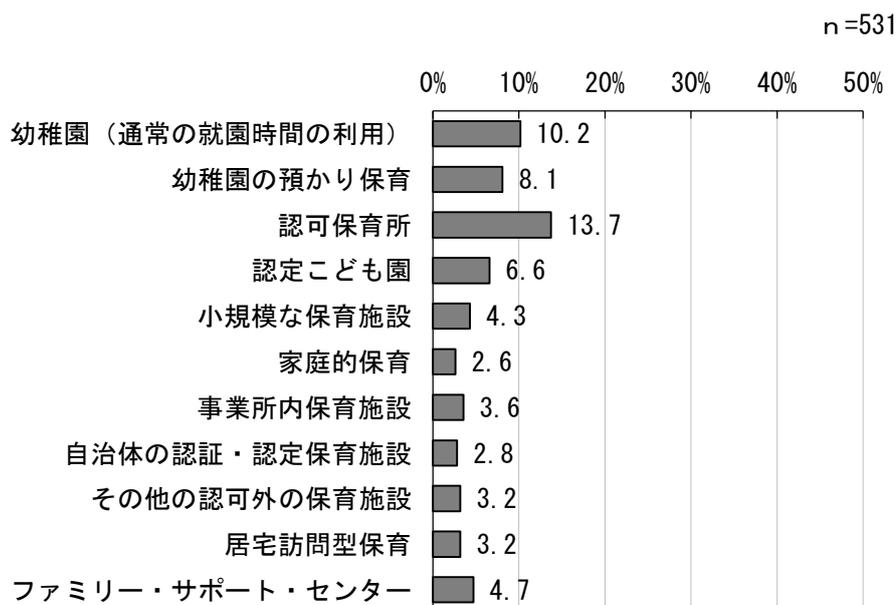
【平日】

平日に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が40.3%と最も多く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が26.2%、「認定こども園」が16.8%となっています。



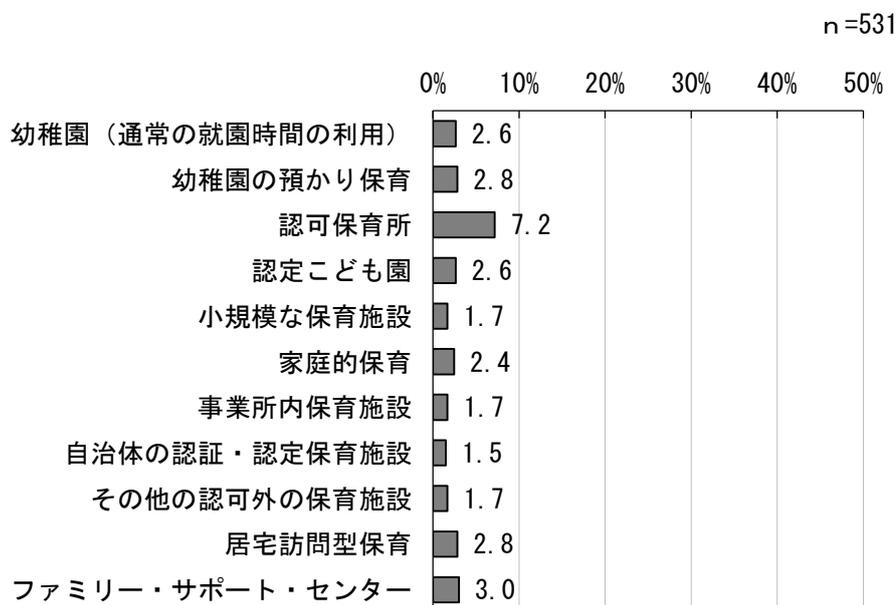
【お子さんの長期休暇期間中】

子どもの長期休暇期間中に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が13.7%と最も多く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が10.2%、「幼稚園の預かり保育」が8.1%となっています。



【土曜日】

土曜日に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が7.2%と最も多く、次いで「ファミリー・サポート・センター」が3.0%、「幼稚園の預かり保育」、「居宅訪問型保育」がそれぞれ2.8%となっています。



【日曜・祝日】

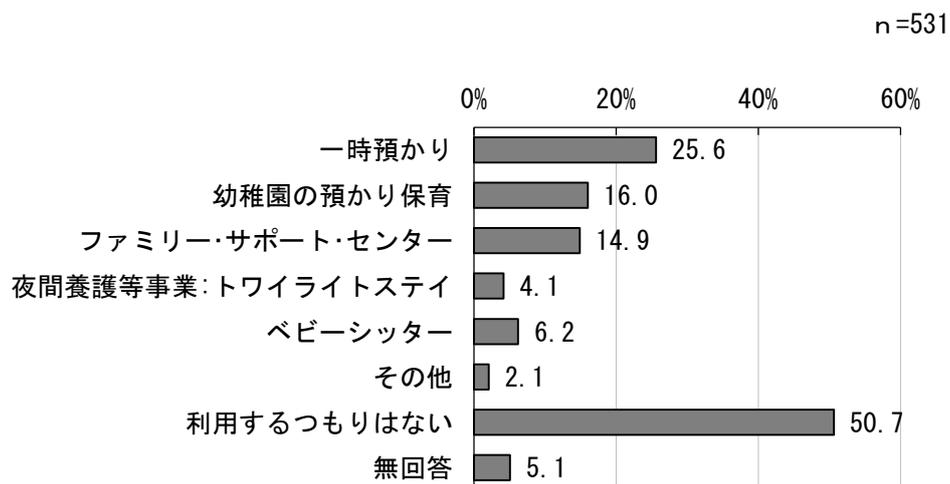
日曜・祝日に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が3.8%と最も多く、次いで「ファミリー・サポート・センター」が2.6%、「居宅訪問型保育」が2.3%となっています。



(2) 「不定期な」教育・保育の利用状況について

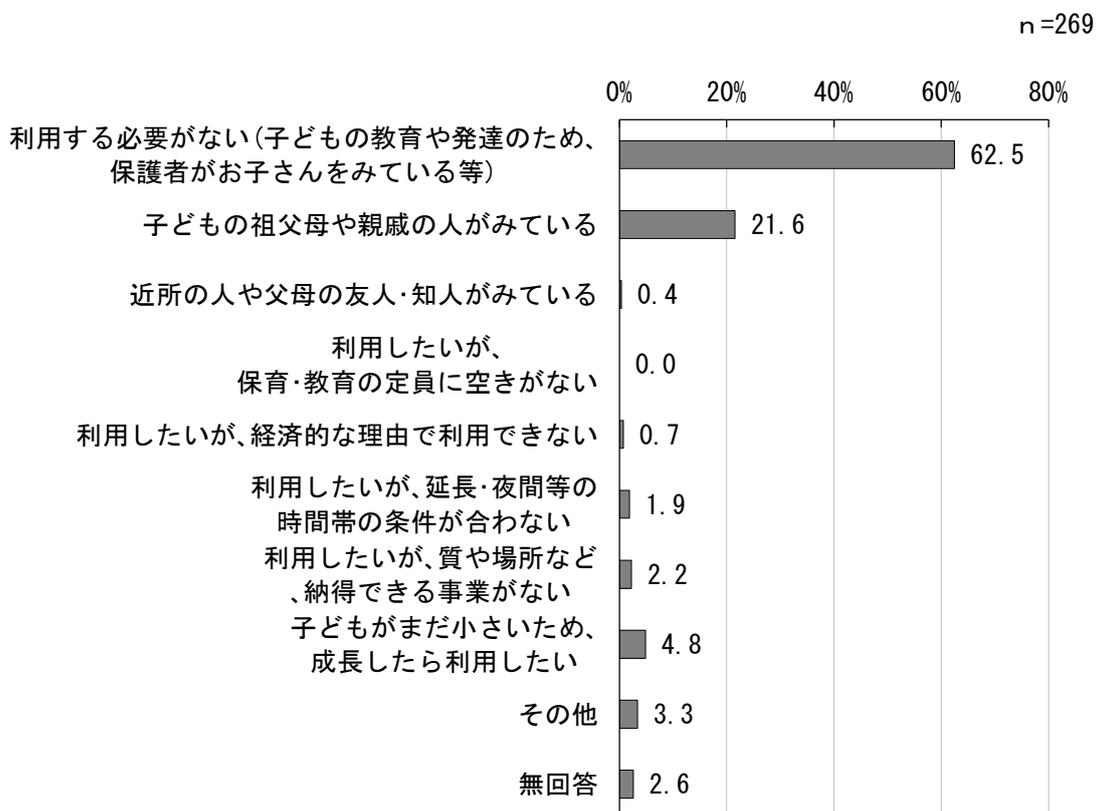
○ 「不定期に」利用したい一時預かり事業

「不定期に」利用したい一時預かり事業は、「一時預かり」が25.6%と最も多く、次いで「幼稚園の預かり保育」が16.0%、「ファミリー・サポート・センター」が14.9%となっており、「利用するつもりはない」は50.7%となっています。



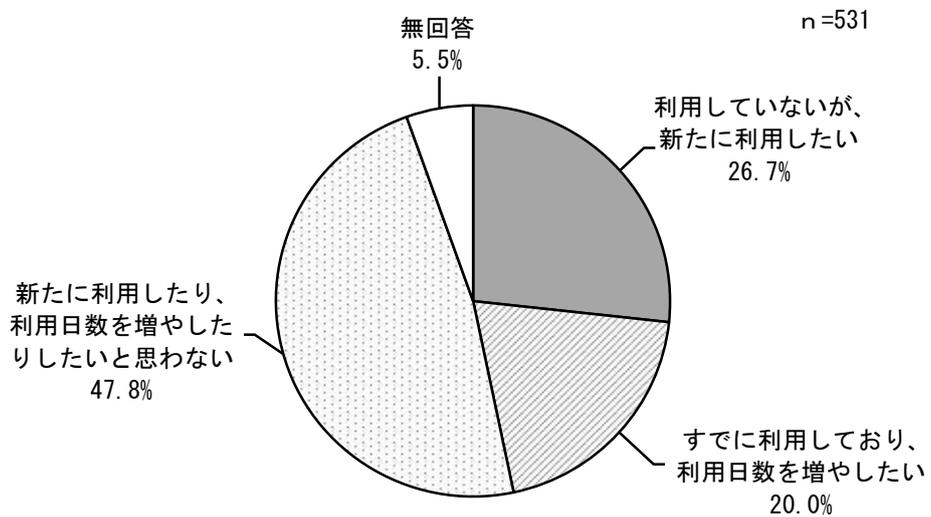
○一時預かり事業の利用を希望しない理由

一時預かり事業の利用を希望しない理由は、「利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、保護者がお子さんをみている等）」が62.5%と最も多く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が21.6%、「子どもがまだ小さいため、成長したら利用したい」が4.8%となっています。



○地域の子育て支援事業の利用意向

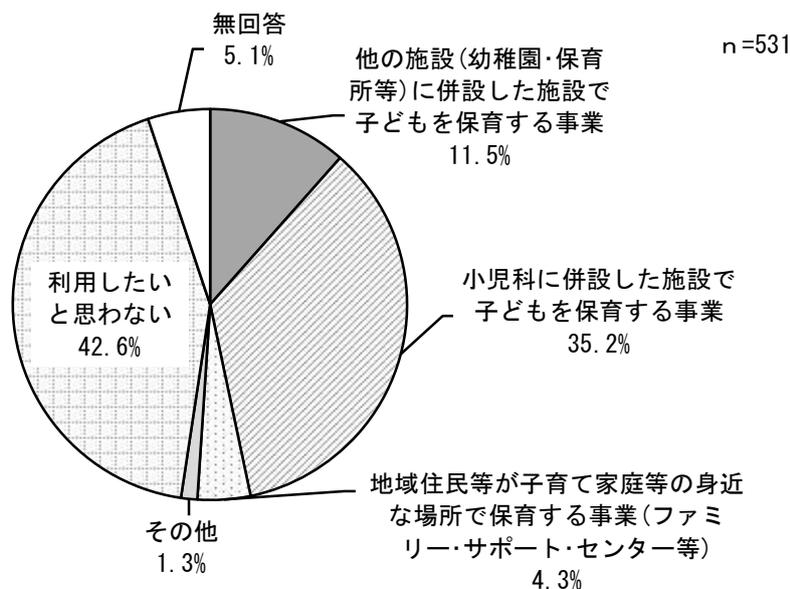
地域子育て支援事業の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたりしたいと思わない」が47.8%と最も多く、次いで「利用していないが、新たに利用したい」が26.7%、「すでに利用しており、利用日数を増やしたい」が20.0%となっています。



(4) 病気の際の対応について

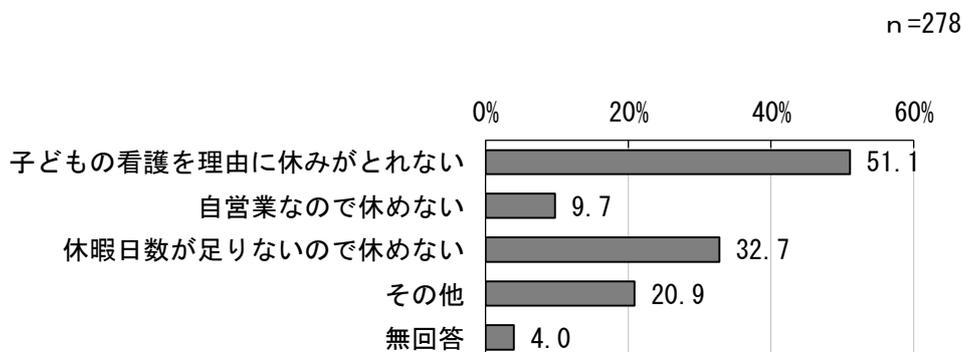
○病気やけがの際に利用したい事業

子どもが病気やけがで教育・保育事業を利用できない場合に利用したい事業は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が35.2%と最も多く、次いで「他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」が11.5%となっており、「利用したいと思わない」は42.6%となっています。



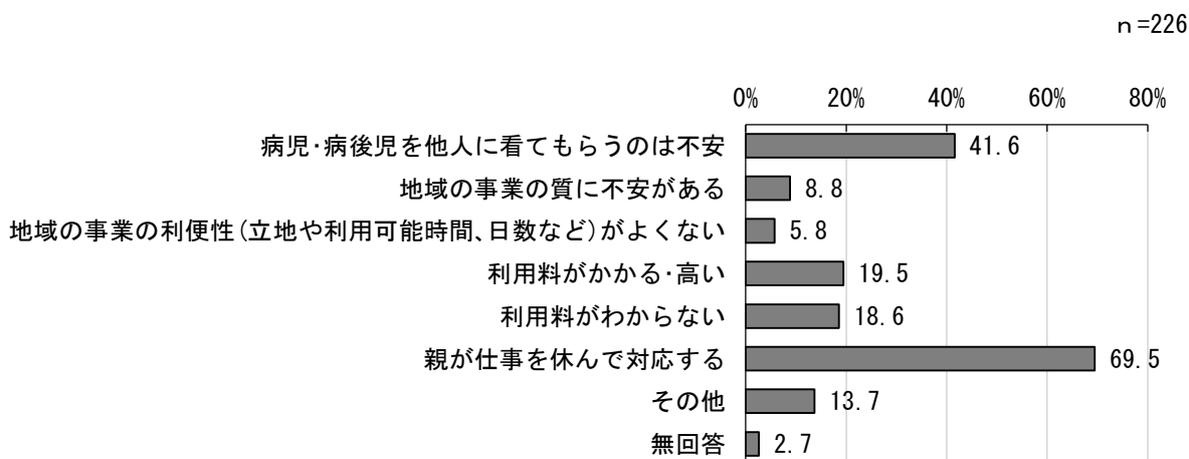
○事業の利用を希望する理由

事業の利用を希望する理由は、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が51.1%と最も多く、次いで「休暇日数が足りないので休めない」が32.7%となっています。



○事業を利用したいと思わない理由

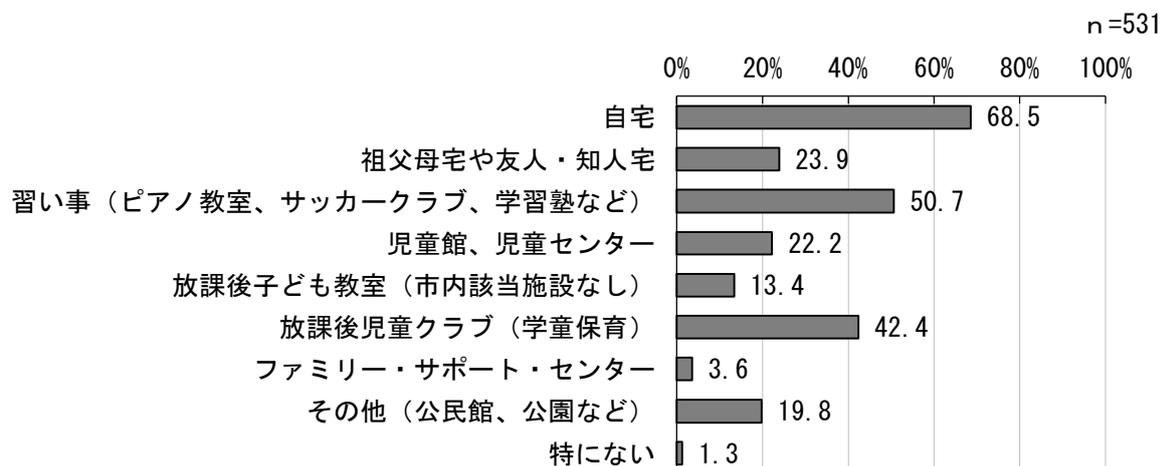
利用したいと思わない理由は、「親が仕事を休んで対応する」が69.5%と最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が41.6%、「利用料がかかる・高い」が19.5%となっています。



(5) 小学校就学後の放課後の過ごし方について

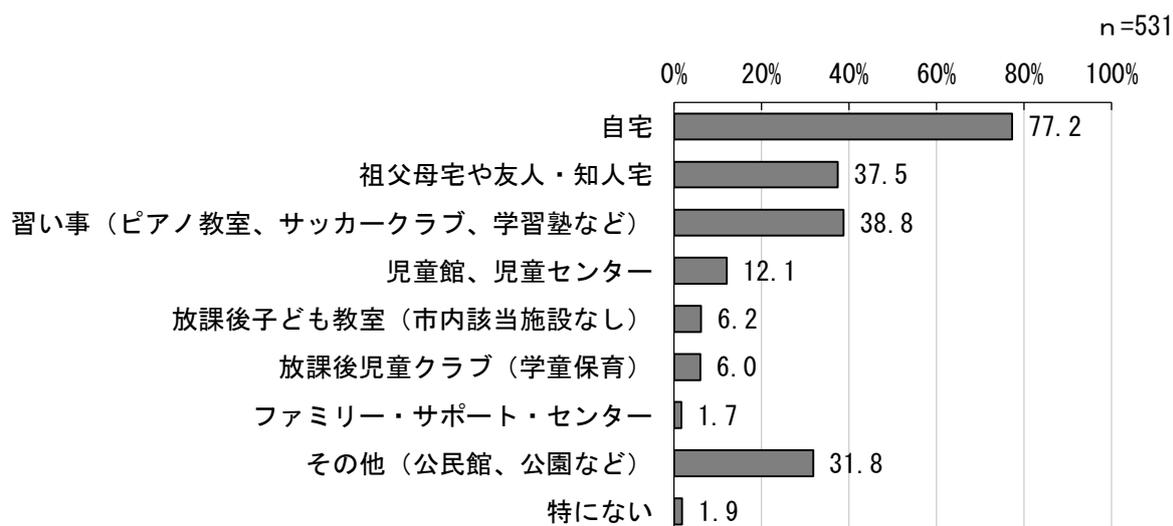
【放課後】

小学校低学年（1～3年生）の内、平日の学校終了後（放課後）に過ごさせたい場所は、「自宅」が68.5%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が50.7%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が42.4%となっています。



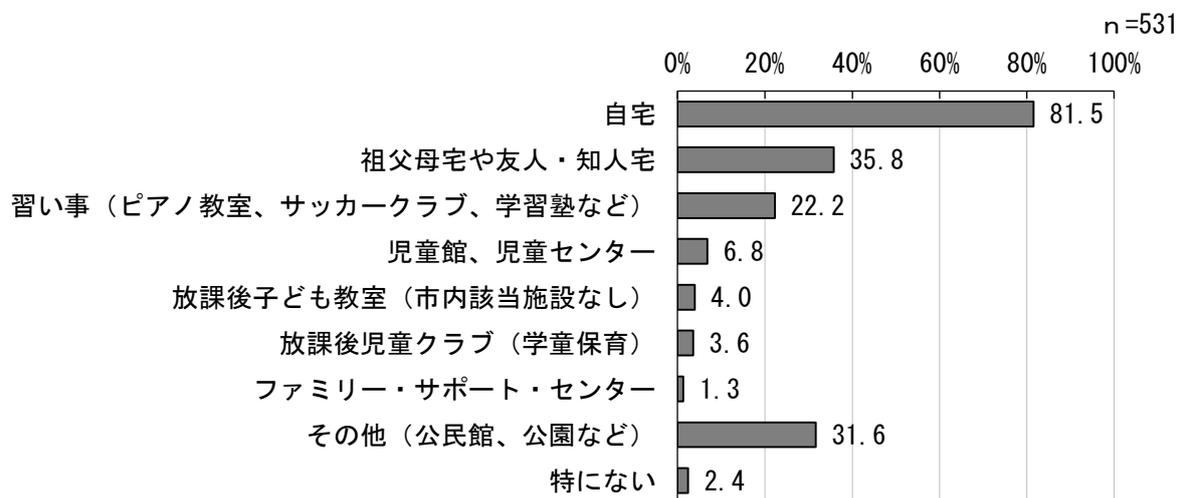
【土曜日】

小学校低学年（1～3年生）の内、土曜日に過ごさせたい場所は、「自宅」が77.2%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が38.8%、「祖父母宅や友人・知人宅」が37.5%となっています。



【日曜・休日】

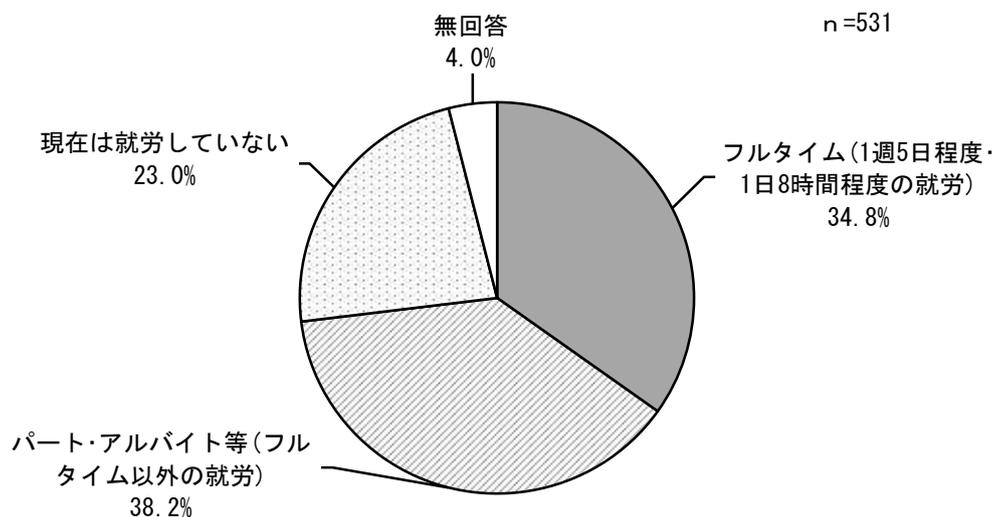
小学校低学年（1～3年生）の内、日曜・祝日に過ごさせたい場所は、「自宅」が81.5%と最も多く、次いで「祖父母宅や友人・知人宅」が35.8%、「その他（公民館、公園など）」が31.6%となっています。



(6) 保護者の就労状況について

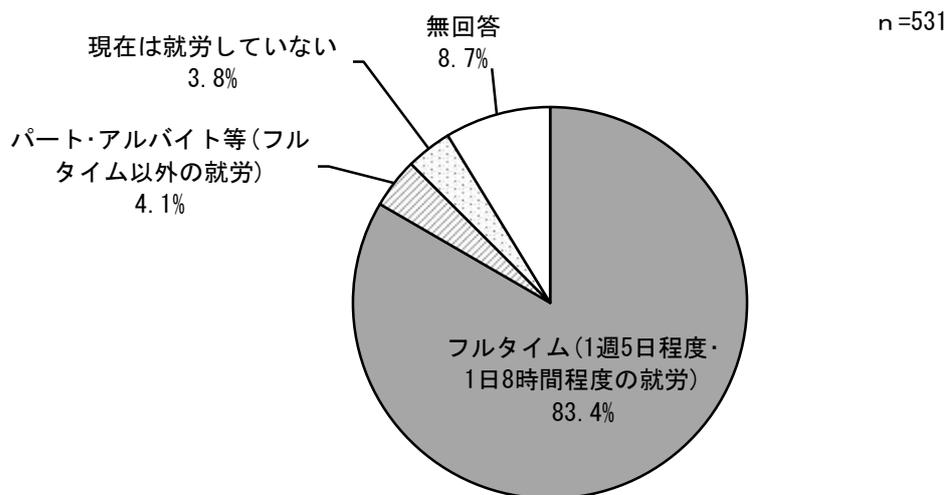
○母親の就労状況

母親の現在の就労状況は、「パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）」が38.2%と最も多く、次いで「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が34.8%、「現在は就労していない」が23.0%となっています。



○父親の就労状況

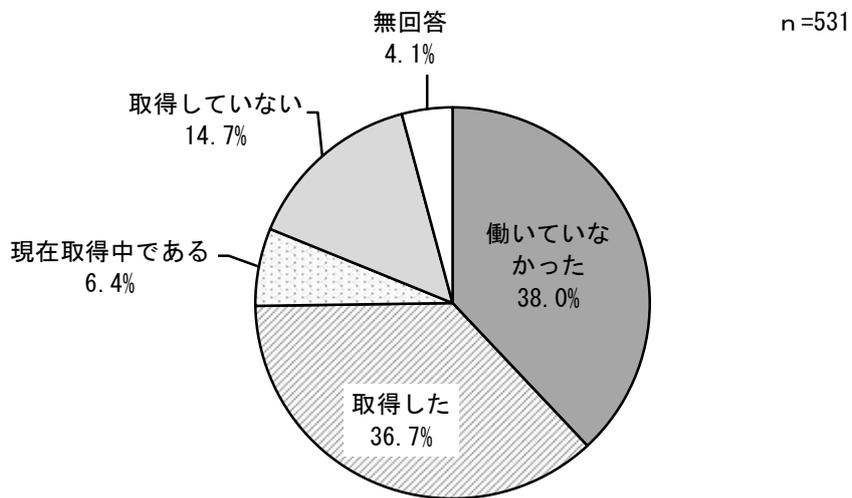
父親の現在の就労状況は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が83.4%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）」が4.1%、「現在は就労していない」が3.8%となっています。



(7) 育児休業の取得について

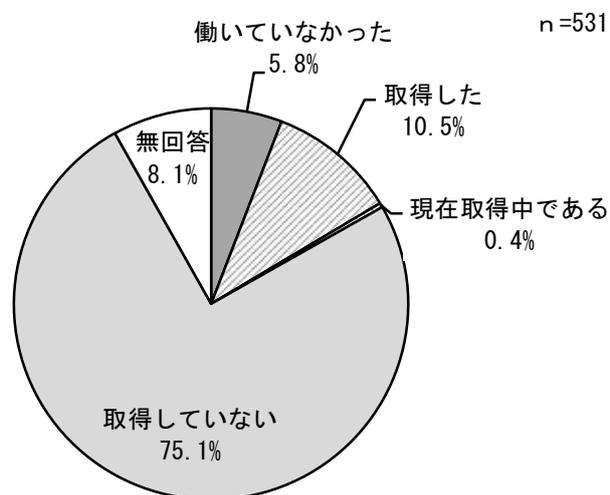
○母親の育児休業の取得状況

母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が38.0%と最も多く、次いで「取得した」が36.7%、「取得していない」が14.7%となっています。



○父親の育児休業の取得状況

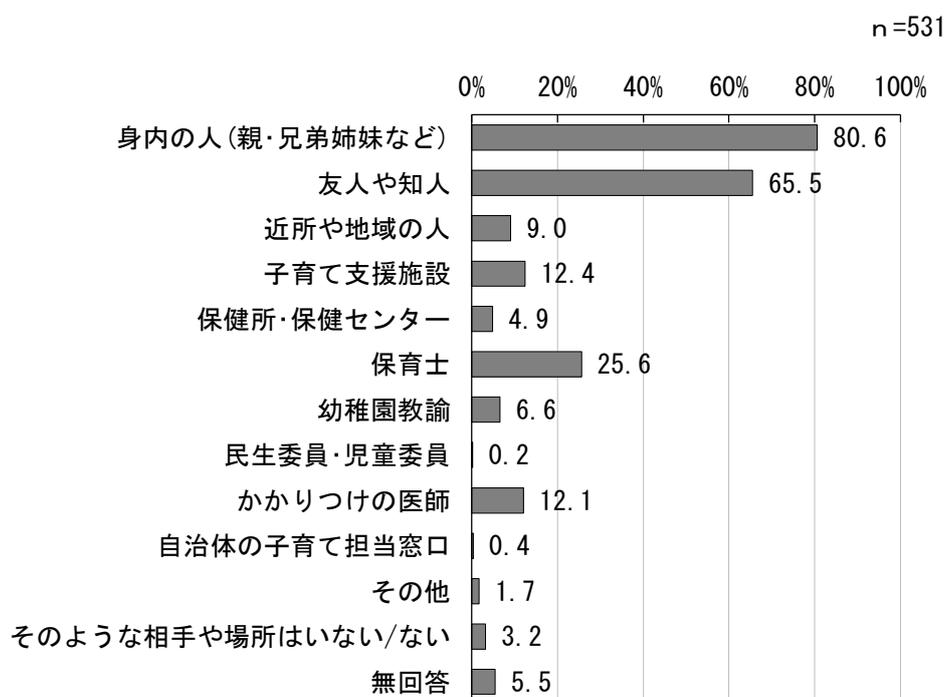
父親の育児休業の取得状況は、「取得していない」が75.1%と最も多く、次いで「取得した」が10.5%、「働いていなかった」が5.8%となっています。



(8) 子どもの育ちを巡る環境について

○子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所

子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所は、「身内の人（親・兄弟姉妹など）」が80.6%と最も多く、次いで「友人や知人」が65.5%、「保育士」が25.6%となっています。

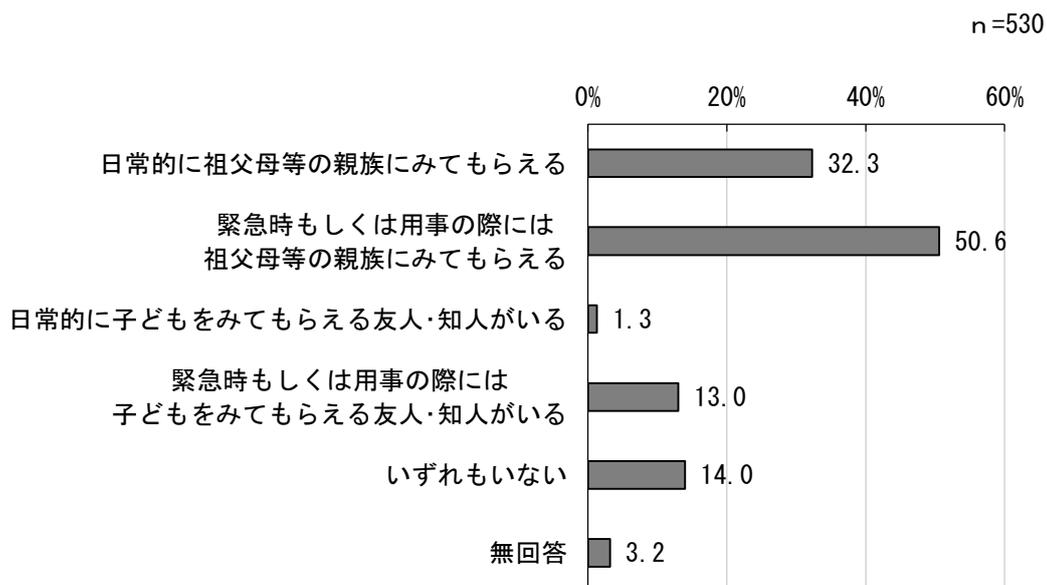


2 調査の結果概要（小学生）

（1）子どもの育ちを巡る環境について

○お子さんをみてもらえる親族・知人の有無

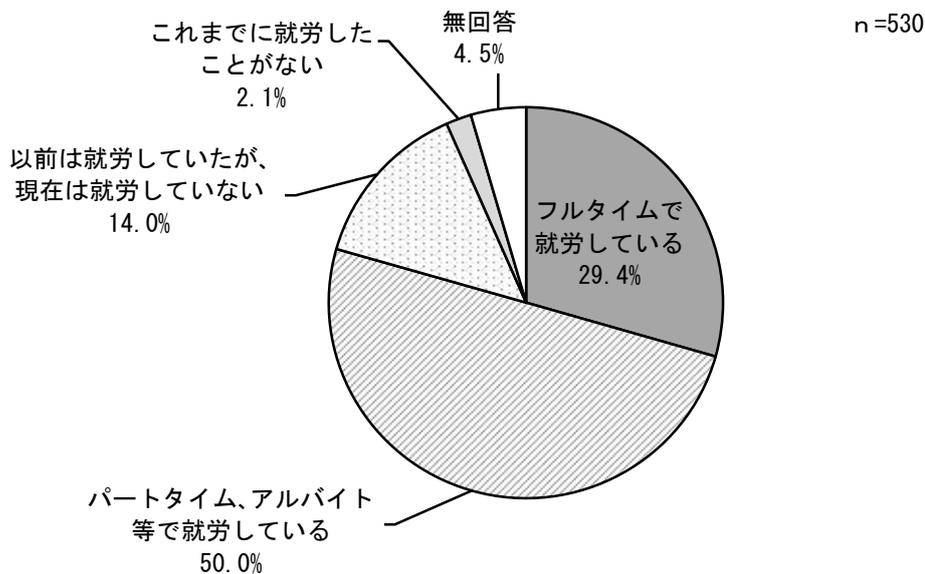
子どもをみてもらえる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が50.6%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が32.3%、「いずれもない」が14.0%となっています。



(2) 保護者の就労状況について

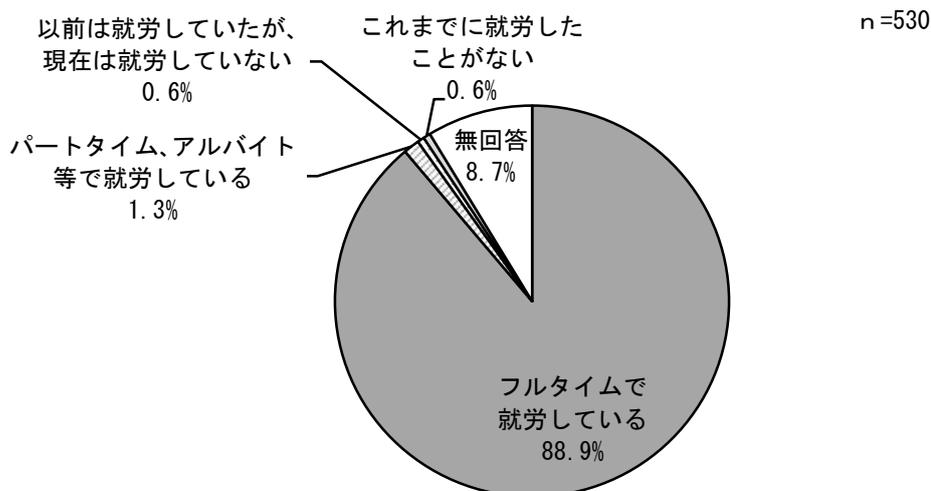
○母親の就労形態

母親の就労形態は、「パートタイム、アルバイト等で就労している」が50.0%と最も多く、次いで「フルタイムで就労している」が29.4%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が14.0%となっています。



○父親の就労形態

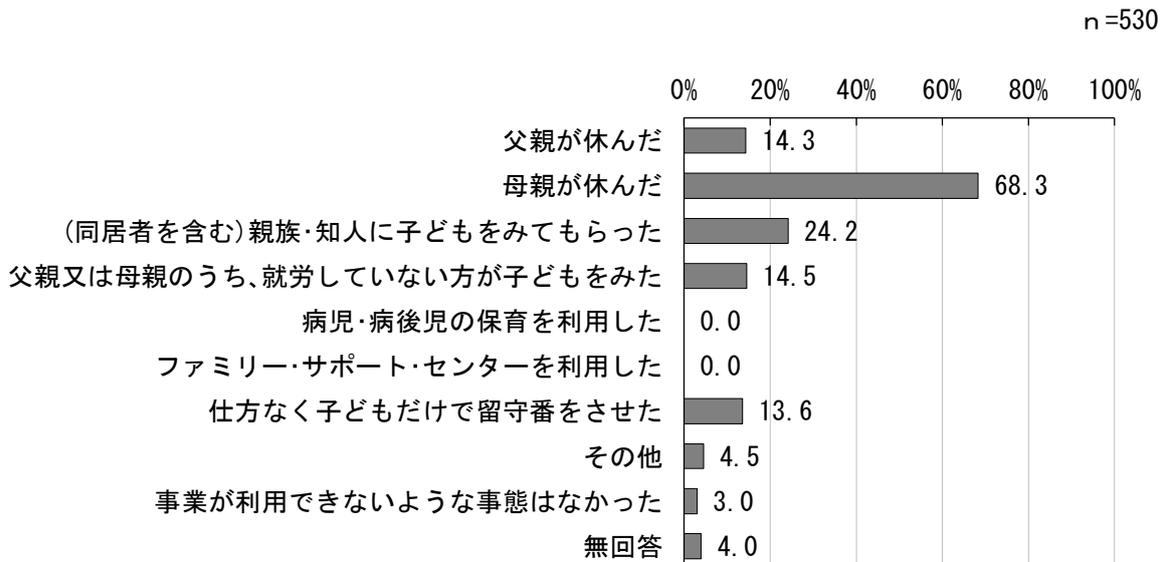
父親の就労形態は、「フルタイムで就労している」が88.9%と最も多く、次いで「パートタイム、アルバイト等で就労している」が1.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」、「これまでに就労したことがない」がそれぞれ0.6%となっています。



(3) 病気の際の対応について

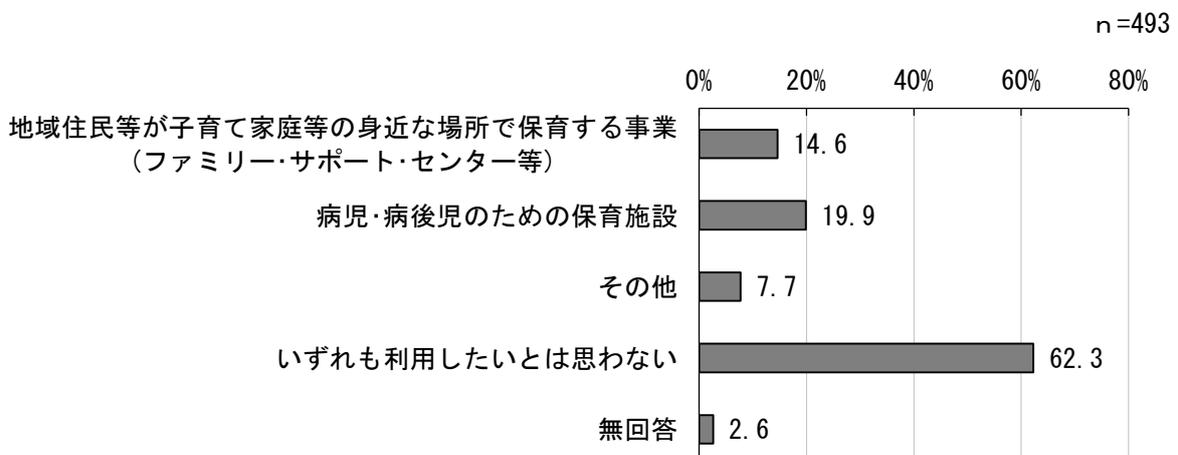
○病気やけがの際の対処方法

子どもが、病気やけがで小学校に出席できなかった場合に、この1年間に行った対処方法は、「母親が休んだ」が68.3%と最も多く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が24.2%、「父親又は母親のうち、就労していない方が子どもをみた」が14.5%となっています。



○病児・病後児保育事業等の利用意向

病児・病後児のための保育施設等の利用意向は、「いずれも利用したいとは思わない」が62.3%と最も多く、次いで「病児・病後児のための保育施設」が19.9%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業(ファミリー・サポート・センター等)」が14.6%となっています。

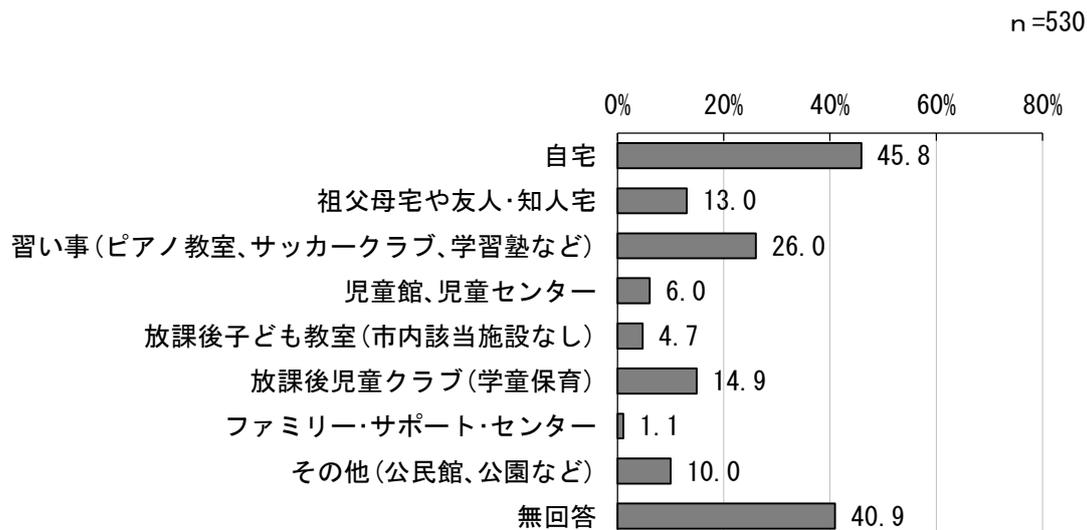


(4) 放課後の過ごし方について

○放課後過ごさせたい場所

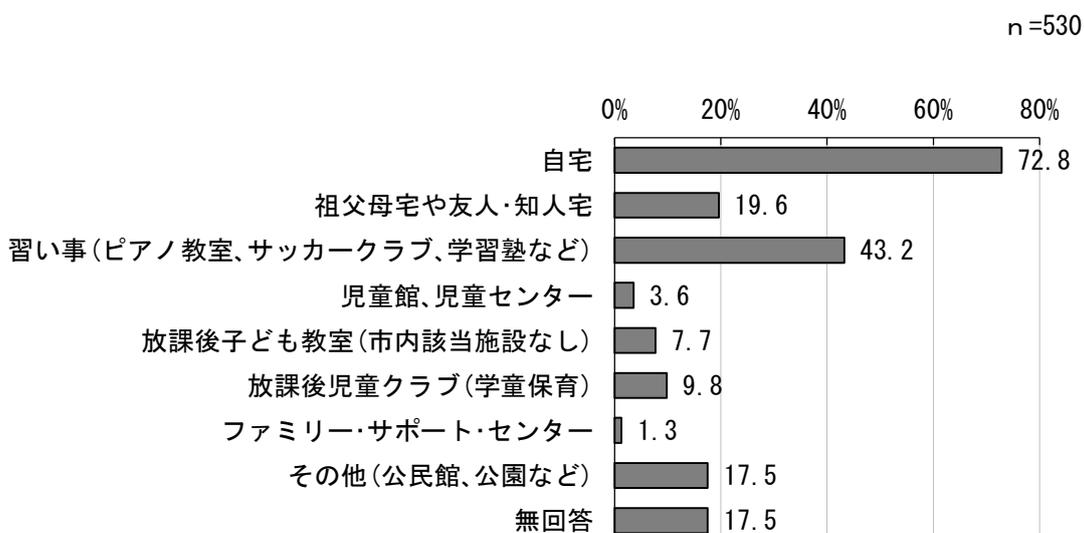
【1～3年生】

放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「1～3年生」としては、「自宅」が45.8%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が26.0%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が14.9%となっています。



【4～6年生】

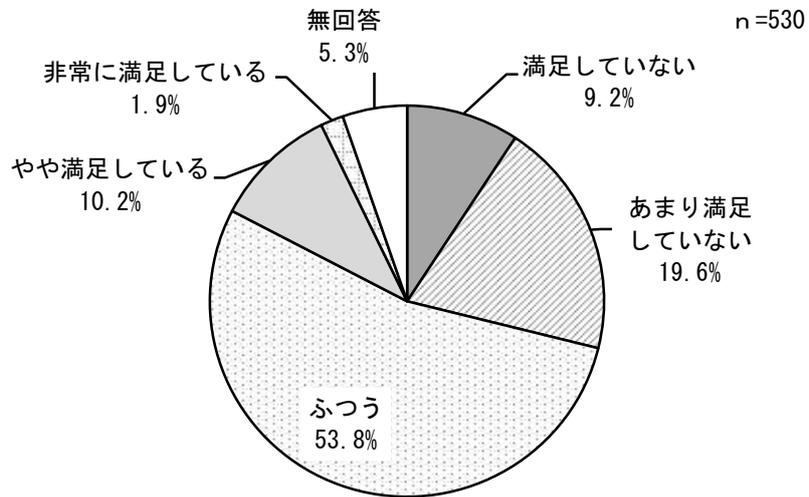
放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所は、「4～6年生」としては、「自宅」が72.8%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が43.2%、「祖父母宅や友人・知人宅」が19.6%となっています。



(5) 稲沢市の子育て環境や支援について

○子育て環境や支援への満足度（小学生のみ）

子育て環境や支援への満足度は、「ふつう」が53.8%と最も多く、次いで「あまり満足していない」が19.6%、「やや満足している」が10.2%となっています。



3 アンケート結果からみえる課題

●「定期的な」教育・保育事業への取組

「定期的な」教育・保育事業について、「認可保育所」を利用していると答えた就学前児童保護者は約4割、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」を利用していると答えた方は約2割でした。

「認可保育所」については約4割、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」については26.2%の方が平日の利用を希望していますが、「認定こども園」は17%程度、「幼稚園の預かり保育」は15%程度の方が利用を希望しています。「認可保育所」、「幼稚園」はもちろんのこと、「認定こども園」や「幼稚園の預かり保育」における保育事業も充実させ、幅広いニーズに応える必要があります。

また、「認可保育所」については子どもの長期休暇期間中が13.7%、土曜日については7.2%の方が利用を希望しており、「幼稚園」についても2.6%の方が土曜日の利用を希望しています。そのため、子どもの長期休暇期間中や土曜日の受け入れ体制が十分かどうか確認し、不十分であれば体制を整える必要があると考えられます。

●「不定期な」教育・保育事業への取組

不定期に利用したい一時預かり事業について、約半数の就学前児童保護者が「利用するつもりはない」と答えていますが、その一方で「一時預かり」については25.6%の方が、「幼稚園の預かり保育」は16%、「ファミリー・サポート・センター」は15%程度の方が今後利用したいと答えています。利用を希望しない理由としては「利用する必要がある（子どもの教育や発達のため、保護者がお子さんをみている等）」が62.5%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」と答えた方は21.6%となっています。

保護者が子ども（特に就学前児童）をみることができず、子どもを預けられる祖父母や親戚等も近くいない家庭や、保護者や祖父母、親戚の人がいたとしても突発的な事情で子どもをみることができなくなった家庭など、様々な家庭の事情に対応できる環境を整え、支援を行う取組を進めていくことが必要と考えられます。

●病児とその家族を支える取組

病気やけがの際に利用したい事業について、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」と答えた就学前児童保護者は35.2%、「他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」と答えた方は11.5%でした。一方で、42.6%の方が「利用したいと思わない」と答えています。利用を希望する理由としては、「子どもの看護を理由に休みがとれない」は半数以上、「休暇日数が足りないので休めない」が32.7%ほどとなっており、利用を希望しない理由としては、「親が仕事を休んで対応する」が最も高くなっています。

小学生児童保護者では、子どもが病気等で学校を休んだ場合の対応として「母親が休んだ」と答えた方が最も多く、病児・病後児のための保育施設等について「いずれも利用したいとは思わない」と答えた方が多くなっていますが、一方で、約2割の方が「病児・病後児のための保育施設」を利用したいと回答しています。

子どもが病気等になった際に安心して子どもを預けられる体制づくりや支援を今後も進めていくことが必要と考えられます。

●放課後の過ごし方に対する取組

放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うかについて、就学前児童保護者では、「自宅」が最も高く、小学生保護者では、1～3年生時においては「自宅」、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」、4～6年生時においても「自宅」、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が高くなっています。したがって、特に、小学校低学年～高学年については、「自宅」以外の放課後の居場所として必要とされている「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の情報提供が求められます。

●子育てと子育て環境に対する支援

稲沢市の子育て環境や支援への満足度は、小学生の子どものいる保護者では「ふつう」が53.8%、「やや満足している」が約1割となっています。一方で、「満足していない」「あまり満足していない」は合わせて28.8%となっています。

また、稲沢市の地域の子育て支援事業の中で利用したことがあるものとしては「児童館・児童センター」が63.3%、次いで「子育て支援センター」が36.9%となっています。聞いたことはあるが利用したことはない事業としては「家庭教育に関する学級・講座（子育てセミナー等）」、「保健センターの情報・相談」などの事業があります。

就学前児童保護者の子どもや子育てに関する相談先は、「身内の人（親・兄弟姉妹など）」が約8割、「友人や知人」が65.5%と高くなっているのに対し、「子育て支援施設（12.4%）」や「自治体の子育て担当窓口（0.4%）」などは非常に低くなっています。

子どもやその保護者が適切な保育・教育事業のサービスを受けられるよう、地域の子育て支援事業に関する情報を効果的に発信していく必要があると考えられます。また、子どもや子育てに関する相談窓口の周知にも取り組む必要があります。